

## 平成23年度事業報告書

### 1 平成23年度事業の概要

平成23年度は、当協会にとって大きな節目を迎えた年度であり、公益財団法人への移行に向けた取組みを着実に進め、平成24年4月1日に公益法人に移行した。また、梅小路公園における京都水族館の開業への対応、宝が池公園子どもの楽園指定管理業務の新規受託、及び3事務所体制での効率的運営に努めた。

これらの組織課題と並行して、公益目的事業は、京都市緑の基本計画、京のみどり推進プランに基づき、花と緑あふれる京都のまちづくりを目指して、都市緑化に関する講習会、自然環境に関する講習会・体験活動、緑のイベントの開催、公園緑地の利用促進、庭園情報発信等を実施し、公益認定に向けた充実を図った。

財務に関しては、22年度決算で収支差額の大幅な赤字を計上し、23年度も、京都市補助金の減少傾向に加え、梅小路公園有料駐車場の利用料金収入がなくなる等の非常に厳しい状況であったが、人件費、委託費等の緊縮的な予算執行に努めた結果、黒字に転じた。また、京都水族館のオープンを契機として、次年度以降の増収の足がかりとするため、新たな収益事業に着手した。

### 2 事務所の開設・移転

梅小路公園再整備（京都水族館建設）及び宝が池公園子どもの楽園の指定管理業務の受託に伴い、次のとおり3事務所体制となった。

事務所名・所在地	運営開始日	事由
本部事務所 〒605-0071 京都市東山区円山町4-6-3	23年4月15日	梅小路公園再整備に伴う移転
梅小路公園管理事務所（緑の館内） 〒600-8835 京都市下京区観喜寺町5-6-3	—	指定管理業務の継続
宝が池公園子どもの楽園管理事務所 〒606-0037 京都市左京区上高野流田町8	23年4月1日	指定管理業務の新規受託に伴う開設

### 3 役員会の開催

#### 【理事会】

回	開催日	主要議決事項
第43回理事会	23年5月31日	理事長及び専務理事選任の件 評議員選出の件 平成22年度財団法人京都市都市緑化協会事業実施報告及び収支決算の件 寄附行為の一部改正の件 定款変更の案の件 諸規程の制定の件

第 44 回理事会	24 年 3 月 24 日	平成 23 年度財団法人京都市都市緑化協会収支補正予算の件 平成 24 年度公益財団法人京都市都市緑化協会事業計画及び収支予算の件 公益財団法人京都市都市緑化協会の理事の職務権限規程の制定について 財団法人京都市都市緑化協会給与規程の一部改正について 諸規程の改正について
-----------	---------------	--

【評議員会】

回	開催日	主要議決事項
第 42 回評議員会	23 年 5 月 31 日	理事選任の件 平成 22 年度財団法人京都市都市緑化協会事業実施報告及び収支決算の件 寄附行為の一部改正変更の件 定款変更の案の件 諸規程の制定の件
第 43 回評議員会	24 年 3 月 28 日	平成 23 年度財団法人京都市都市緑化協会収支補正予算の件 平成 24 年度公益財団法人京都市都市緑化協会事業計画及び収支予算の件 公益財団法人京都市都市緑化協会の理事の職務権限規程の制定について 財団法人京都市都市緑化協会給与規程の一部改正について 諸規程の改正について

#### 4 公益財団法人への移行

公益法人制度改革関連三法が平成 20 年度に施行され、財団法人は存続を望む場合、一般財団法人への移行若しくは公益財団法人への移行の選択を迫られることとなった。当協会は「みどり」という公益性が高い分野で、市民と行政をつなぐ重要な役割を担うため、公益財団法人への移行を選択することとした。平成 23 年度は認定申請等の必要な手続きを進め、年度内に認定を受けることができた。最近の経過は次のとおり。

平成 22 年度

23 年 3 月 24 日	第 42 回理事会において新公益法人における最初の評議員候補者の推薦
23 年 3 月 25 日	評議員（当時）で構成する「新公益法人における最初の評議員選定委員会」（第 41 回評議員会後に開催）において最初の評議員を選任

平成 23 年度

23 年 6 月 30 日	京都府へ移行認定申請書提出
23 年 8 月 9 日	申請書の審査開始。以降、申請書の補正・修正の協議
23 年 12 月 14 日	京都府公益認定等審議会において最初の審議。国立京都迎賓館庭園維持管理業務の事業区分等について補正意見
24 年 2 月 1 日	審議会が京都府知事に対し認定基準に適合すると答申
24 年 2 月 29 日	申請書の最終補正・修正提出
24 年 3 月 21 日	京都府知事が認定の決定

平成 24 年度

24 年 4 月 1 日	公益財団法人の設立（名称変更，移行）登記
--------------	----------------------

## 5 平成 23 年度各事業の実施

平成 23 年度事業計画書の項目に沿って、各事業の実施状況を報告する。

### I 公益目的事業

#### (1) 都市緑化の普及啓発事業 <推進プラン事業番号 46-1, 51-1>

##### ア 園芸・造園関係の講習会等

##### a 園芸講習会

市民を対象として、園芸、造園など緑化に関連する技術・知識の普及を図った。

- ・講師 協会花と緑の普及員 駒井修
- ・受講者 前期 34 人，後期 41 人
- ・各回の実施内容

	回	開催日	実施内容
前期	第 1 回	5 月 27 日	鉢植え用土の使い方と春まき一年草の種まき
	第 2 回	6 月 17 日	アジサイの楽しみ方～栽培管理と殖やし方
	第 3 回	7 月 15 日	多肉植物の楽しみ方と殖やし方
	第 4 回	8 月 19 日	日用品のリサイクル材で鉢を作る
	第 5 回	9 月 16 日	作った鉢で寄せ植え実習
後期	第 1 回	10 月 20 日	鉢植え用土の使い方と秋まき一年草の種まき
	第 2 回	11 月 10 日	秋植え球根と多年草の株分け及び球根の植え付け
	第 3 回	12 月 15 日	正月用の植物の紹介とその植え付け
	第 4 回	2 月 16 日	日用品のリサイクル材で鉢を作る実習
	第 5 回	3 月 15 日	作った鉢で寄せ植え実習

(22 年度は前期・後期の各 6 回シリーズを実施)

##### b 季節を楽しむ園芸教室の開催

シリーズで学ぶ講習会とは別に、四季の移り変わりを楽しむ教室・講習会を実施した。

教室名	開催日	講師	参加人数
和の花を使った苔玉づくり講習会	10月10日	原田弘種（協会）	30人
苔玉づくり体験コーナー （下京ふれあい広場）	11月13日	梅小路公園花と緑 のサポーターの会	30人
正月の寄せ植え教室	12月18日	原田弘種（協会）	32人
春の寄せ植え教室	3月25日	原田弘種（協会）	28人

（22年度は4回実施）

c 花壇づくり講習会

公共の花壇づくりを中心に、設計や植付け等のグループ作業を通じて、グループで行う緑化活動の基本をシリーズで学んだ。

- ・講師 協会花と緑の普及員 駒井修
- ・受講者 20人
- ・各回の実施内容

回	開催日	実施内容
第1回	1月28日	公共空間での花壇づくりの基礎知識
第2回	2月11日	花壇設計1（計画図）
第3回	2月25日	花壇設計2（植栽決定・数量計算）
第4回	3月10日	植付け実習
第5回	3月24日	花壇管理

（22年度は実施なし）

d 出張園芸教室等の開催

緑化に関する講習会の開催について地域団体からの要請等を受け、実施した。

開催日	テーマ	講師	受講者	開催場所
8月10日	簡単苔玉づくり	寺田裕美子 （園芸療法士）	障害者手帳を お持ちの9人	京都市洛南身体障害 者福祉会館（南区）
9月10日	花壇の管理方法 に関する相談会	駒井修（協会）	梅津南町南部 町内会13人	梅津学区自治会館 （右京区）
12月21日	正月の寄せ植え	駒井修（協会）	植柳地域女性 会19人	元植柳小学校 （下京区）
12月26日	正月の寄せ植え	駒井修（協会）	皆山地域女性 会27人	下京渉成小学校 （下京区）
3月27日	和花を使った寄 せ植え	駒井修（協会）	施設利用者16 人，職員4人	島原デイサービスセ ンター（下京区）

（22年度は5回実施）

イ 園芸福祉ボランティア講座

梅小路公園内の「花と緑のセラピーガーデン」内で、園芸療法士・寺田裕美子氏

指導のもと、身体障がい者、引きこもり自助グループの参加も得て、活動を行った。

ウ みどりの散策ツアーの開催 <推進プラン事業番号 38-2>

広報誌「京のみどり」に掲載している特集記事との連動企画として、市内各地のまちなかの緑のスポットを訪ね歩く散策を通じ、緑にかかわる歴史文化や快適な生活環境づくりの取り組みを考える機会を提供した。

- ・講師 田端敬三氏（近畿大学・造園学）、地域の歴史・文化に詳しい専門家等
- ・各回の実施内容

回	開催日	コース	参加者数
第1回	4月24日	特別編（稲荷山周辺の竹林保全の取り組み）伏見稲荷大社→竹林再生の見学→NPO深草ふれあい隊竹と緑による筍の話と昼食→石峰寺	21人
第2回	12月17日	上賀茂神社境内（国宝社殿等見学）→藤木社→すぐき漬け見学→重要伝建地区→賀茂川	16人

（22年度は2回実施）

（2）自然環境に関する講習会・体験活動

ア 体験型講習会、自然観察会等 <推進プラン事業番号 47-3, 52-7>

a 梅小路公園自然観察会の実施

様々な生き物に親しみ、自然の仕組みを理解していただくことを目的として、ビオトープ「いのちの森」等、公園内での自然観察会を実施した。講師は京都ビオトープ研究会（森本幸裕代表）いのちの森モニタリンググループ及び協会職員。

①月例観察会等（計14回・参加者計188人）

開催日	テーマ	開催日	テーマ
4月16日	野草の観察1	10月15日	越冬昆虫の観察1・コモ卷
5月4日	グリーンフェア観察会	10月16日	グリーンフェア観察会
5月21日	野草の観察2	11月19日	下鴨神社糺の森の植生
6月18日	いのちの森のきのこ	12月24日	冬鳥の観察
7月16日	昆虫の観察1	1月21日	冬芽の観察
8月19日	昆虫の観察2	2月18日	越冬昆虫の観察2
9月17日	公園の樹木管理	3月17日	明治神宮林苑・万博公園の森の造成

（22年度は14回実施）

②夏休み企画

- ・夏休み親子自然観察会（8月20日実施）

特定外来生物であるアメリカザリガニとウシガエル（おたまじゃくし）の駆除を兼ねて観察会の中で「ザリガニ釣り」を実施。参加者30人。

（22年度は1回実施）

③団体向け観察会

開催日	団体名	テーマ	参加人数
-----	-----	-----	------

4月14日	槐の会（京都教育大関係の市民グループ）	いのちの森の成り立ち等解説	25人
3月13日	梅小路小学校（1・2年生）	梅小路公園で探す春の息吹	34人

（22年度は2回実施）

#### b 宝が池公園自然あそび教室

宝が池公園子どもの楽園プレイパークゾーンでの自由な遊びを中心とするプレイパーク（通常プレイパーク。（4）ウ参照）とは別に、同ゾーン及びその周辺の自然環境を生かし、子どもたちが遊びながら学べる教室を、22年度よりも一層充実して実施。自然素材を使ったクラフト、自然の仕組みを学ぶ遊びのほか、古くから自然と共生してきた地域の生活文化を学ぶ教室（（財）京都市埋蔵文化財研究所協力）等を開催。夏休み期間中には、特別プログラムとしてキャンプ等も実施した。

- ・開催日（原則隔週土曜日） 4月2日，16日，5月7日，21日，6月4日，12日，18日，7月2日，17日，23～24日（親子キャンプ），30日（夜のセミの羽化観察），8月6日，20日，9月17日，10月1日，10日，15日，11月3日，19日，27日（どんぐりまつりクラフトビリッジ），12月3日，17日，1月15日，21日，2月4日，18日，26日（土絵の具ワークショップ），3月3日，24日，25日，31日
- ・実施回数 計31回（22年度は25回実施）
- ・のべ参加人数 951人

#### イ スタッフ・ガイド養成 <推進プラン事業番号 52-7>

体験型の環境学習の活動を支える人材、梅小路公園朱雀の庭等をガイドできるボランティアを養成するため、開催する計画であったが、諸般の事情により実施できなかった。（22年度は1回実施）

### （3）緑の相談所運営

#### ア 相談業務

##### a みどりの相談

相談を通じて園芸等の知識を高め、緑化推進を図るため、平成10年度以降、無料の相談業務を行っている。22年度までは相談日を週3日設けていたが、23年度は週2日とした。相談所は本部事務所とともに円山公園内に移転したが、面談による相談者が大幅に減少した。相談件数は22年度比の約4分の1となった。

- ・相談日 毎週2日（水曜日，土曜日）及びイベント等での出張相談
- ・時間 午前10時～午後4時まで（面談，電話，FAXによる）
- ・実績 相談日数 90日

相談件数（内容別） 702件（うち面談による相談34%）  
（平成22年度は相談日数142日2,858件，うち面談による相談72%）

##### b 相談所データベースの導入とホームページでの発信

相談データの蓄積，事務所分散に対応した情報管理の必要性から，相談記録を電

子データ化し、記録の検索や集計等ができる相談所データベースを平成 23 年 1 月から運用しているが、23 年度はそれ以前の相談データの入力を遡及して進めた。また、協会ホームページ「相談所だより」のデザインを変更し（24 年 2 月）、各季節、テーマごとの相談内容の発信にデータベースのデータを利用する。

#### イ 希少植物の保全・普及

市民団体、園芸家、京都放送（KBS 京都）等のご協力により、計 3 回、希少な在来種を含む和花等の展示を梅小路公園で行ったが（(4) ア b 参照）、協会も原種フジバカマ等希少種の育成・繁殖に取り組んだ。

### (4) 緑のイベントの開催及び支援

#### ア みどりの月間、都市緑化月間等のイベントの開催、協力

みどりの月間（4～5 月）、都市緑化月間（10 月）に、「守ろう！古都の自然」キャンペーンとして、グリーンフェア春／秋、春の和の花展、藤袴と和の花展などの様々なイベントを実施した。

##### a 梅小路公園グリーンフェア 2011 春／秋

爽やかなみどりや広々とした空間など公園のもつ心地よさ、安らぎ、にぎわいを多くの市民に感じていただくために、春と秋の 2 回実施した。

開催日		天候	来場者数
春	5 月 3 日（火・祝）	曇	17,000 人
	5 月 4 日（水・祝）	晴	22,000 人
秋	10 月 15 日（土）	曇（朝のうち雨）	5,000 人
	10 月 16 日（日）	晴	12,000 人
計			56,000 人

※ 春・秋とも「京の朝市」と同時開催。

※ 10 月 15 日は「ほほえみ広場 2011」（京都市による障がい者社会参加等の普及啓発事業）と同時開催。

（22 年度は 4 日間計 81,000 人）

##### b 春・秋の和の花展

梅小路公園朱雀の庭を会場に、自然保護団体や園芸家の協力により、絶滅危惧種を含む山野草、古典園芸植物等を屋外展示するとともに、イベントを行い、身近な自然環境を守る大切さを訴えた。

##### ①春の和の花展（第 2 回）

- ・期間 4 月 23 日（土）～5 月 8 日（日）（14 日間）
- ・京都三山の絶滅危惧種を含めた和の花等約 140 種 270 鉢を展示。
- ・イベント 近藤和男写真展「西山の自然」及び山野草展示即売会（5 月 3～5 日 緑の館）、相談コーナー
- ・入場者数 1,146 人

##### ②藤袴と和の花展（第 3 回）

（株）京都放送「守ろう！藤袴プロジェクト」をきっかけに平成 20 年度から開催。府下では絶滅危惧種である原種フジバカマ 220 鉢をはじめ、山野草、水草等を展示。台湾等から本州に渡り、フジバカマの蜜を求めるチョウ・アサギマダラ

が多数飛来し、写真を撮影するコーナーが人気を博した。和の花による地域おこしを進めている右京区水尾地区のフジバカマも展示された。

- ・主催 緑化協会・(株) 京都放送
- ・期間 9月23日(金・祝)～10月10日(日)(16日間)
- ・京都三山の絶滅危惧種を含めた和の花等約160種500鉢を展示。
- ・イベント ヴァイオリン・デュオ・コンサート(10月2日), 渡りの蝶アサギマダラを写そう(10月8～9日), 山野草展示即売会(10月1～2日), 和の花を使った苔玉づくり(10月10日), 相談コーナー(10月2日), 藤袴の絵画展
- ・入場者数 2,358人

③春を告げる花木と草花展(初)

京都水族館の開業に合わせ、葉が茂る前に花が咲く花木と和花のイメージの草花で彩る大型コンテナ、低木と草花の鉢植えなど計51基のコンテナを展示した。2～3月の寒さでメインのシデコブシの開花が遅れ、4月8日まで期間を延期した。

- ・期間 3月10日(土)～4月8日(日)(計26日間。予定では3月25日まで)
- ・入場者数 1,908人

c 京都まちとみどり写真コンクール

緑あふれるまちづくりを推進する第27回「京都まちとみどり写真コンクール」を共催した。「まちの緑と緑化」などをテーマに535点の応募があり、入選41作品の展示が梅小路公園, 山城総合運動公園(宇治市), 京都府庁等の府内各地で行われた。

- ・主催 京都府都市計画協会主催
- ・共催: 京都府, 京都市, (財) 京都府公園公社, (財) 京都市都市緑化協会, (社) 京都府造園建設業協会
- ・表彰式 10月1日(梅小路公園「緑の館」)  
(22年度は353点の応募)

d 地域イベントへの参加

おいけフェスタ, 区民まつり等に市民団体と協会が共同で出展, または出展を支援し, 園芸体験コーナーを設ける等の活動を行った。

イベント名	開催日	場 所
堀川・桜まつり	4月3日	堀川河川敷(一条戻橋～押小路橋)
中京区民ふれあいまつり	10月30日	中京中学校グラウンド
おいけフェスタ2011	11月5～6日	御池通歩道・ゼスト御池地下街等
下京区ふれ愛ひろば	11月13日	梅小路公園

イ 「みどり」に関連した多彩な教室の開催

a 草木染めを使ったパッチワーク教室

梅小路公園の植物を材料にした草木染め(サクラ剪定枝等)の布を使い, パッチワークを制作。受講者数は, 各期とも午前の部・午後の部各20人。

- ・講師 池田由美子
- ・第1期 開催日 6月2日, 9日, 23日, 7月7日, 21日
- ・第2期 開催日 9月29日, 10月6日, 13日, 27日, 11月10日
- ・第3期 開催日 2月9日, 23日, 3月15日, 29日(第5回は24年度)



- ・のべ実施回数（23年度中）28回（22年度は25回） ・のべ参加者数542人
- b 木登り体験会（ツリークライミング®体験会）
  - ・指導 ツリークライミング®ジャパン
  - ・開催日 4月24日，5月3日，4日，6月26日，7月31日，8月28日，10月16日，11月3日，11月27日，12月25日，3月25日
  - ・実施回数11回（22年度は9回） ・参加者数 のべ88人
- c 梅の実採り体験
 

梅の実の盗難防止を兼ね，事前告知を行った上で，採取を体験していただいた。

  - ・協力 梅小路公園花と緑のサポーターの会
  - ・開催日 6月7日 ・参加者数 90人

## ウ プレイパーク事業

- a 梅小路公園プレイパーク
 

「あそびのリーダー」となる大学生等のボランティアを中心に運営を組織し，毎月2回，定例の活動を実施した。夜間の「肝だめし」などの夏休み特別企画（2回），正月遊びなど季節にちなんだプログラムも採り入れた。

  - ・活動日 第2・第4土曜日
  - ・実施回数 定例活動，特別企画及びやんちゃフェスタ等での実施 計26回（22年度は28回）
  - ・参加者数（子ども・保護者） 計2,372人
  - ・あそびのリーダー数 計176人
- b 梅小路公園ミニ・プレイパーク
 

幼児と保護者，または小学生を対象として，小人数による自然遊びやものづくり体験等を行い，公園を「居場所」として感じていただくことや，自然に親しみを感じていただくミニ・プレイパークを行った。

  - ・活動日 原則火曜日午前または金曜日放課後
  - ・実施回数 25回（22年度は11回）
  - ・参加者数 のべ340人
- c 宝が池公園子どもの楽園プレイパーク
 

子どもの楽園におけるプレイパーク事業は，22年度までは受託事業であったが，23年度より自主事業として実施。季節にちなんだ遊びも行った。

  - ①通常プレイパーク（自然あそび教室除く） 44回（22年度53回）
    - ・活動日 日曜・祝日
    - ・参加者数 のべ6,563人
  - ②特別イベント
    - ・5月5日（木・祝） ちびっこまつり 300人
    - ・11月27日（日） どんぐりまつり（遊びのコーナー全体）2,500人

## （5）まちなか（市街地）緑化事業

- ア 和花等を生かしたまちなみ緑化 <推進プラン事業番号43-9>
  - ・緑視率の向上と町並み修景を図るため，和花等の在来種を主体とする京都らしいコンテナを，街路沿いの狭いスペースに設置し，施設利用者や地域住民に管理していただき，協会が技術的支援等を行う「まちなみ緑化支援モデル事業」を下京

- 区島原地区で始めた。今回の施設は京都市が市民公募型緑化推進事業として整備。
- ・場所 島原のぞみデイサービス敷地内（下京区西新屋敷中之町 103-2）
- ・施設内容 花矢来 4 基（32 プランター）、竹バスケット 2 箇所（6 プランター）、及び地植え植栽スペース
- ・キックオフ講習会 3 月 27 日（火）（駒井修講師）
- ・施設利用者が「花矢来」の一部コンテナの植付けと、コンテナに共通する和花等を使った寄せ植えを行った。施設利用者 16 人、職員 4 人が参加。

## （6）緑の団体支援事業

### ア 「京都みどりのサポーター協議会」の運営

各地で緑化を担う緑の活動団体と本協会が協働で緑化を進めるための組織「京都みどりのサポーター協議会」を運営した。

- ・参加団体 梅小路公園花と緑のサポーターの会（岩永忠正代表）、中京・花とみどりの会（西村勇代表）、NPO 法人地域社会の環境保全と科学技術の振興を目指す会（通称 E/S を目指す会）（飯井基彦理事長）、小野芙蓉会（谷中登美行代表）、京都みどりクラブ（谷久美子代表）
- ・会長＝西村勇、副会長＝岩永忠正
- a 御池通スポンサー花壇の沿道「サポーター」への支援
 

御池通を沿道企業等のスポンサーの寄付により四季の花で彩る京都市御池通スポンサー花壇事業で、水やり等日常の手入れを担う沿道の事業所等の「サポーター」の活動を補助・支援する業務を「京都みどりのサポーター協議会」が受託し、協会は、巡回管理、団体間の調整連絡、ニュース発行等の支援・協力を行った。

  - ・花壇基数 102 基（平成 22 年度は 69 基）
- b 地域イベントへの出展（（4）ア c 参照）
- c フタバアオイの保全・普及啓発のための「葵プロジェクト」の一環として参加する北山通協同組合への協力（プランターへの植付け）
  - ・実施日 3 月 16 日（金）
  - ・場所 上賀茂神社
  - ・2 団体 10 人が協力

### イ プレイパーク交流フォーラム（第 2 回）

当協会が主催し、京都府内や近隣府県においてプレイパーク活動を行う団体・関係者の交流、経験の交換を行うとともに、公園緑地の活用のあり方について考えた。

- ・開催日 6 月 11 日（土）
- ・場所 梅小路公園いのちの森・緑の館
- ・テーマ「フィールドを見つめ直す」
- ・内容 基調講演「プレイパークの役割」（菅井啓之・ノートルダム女子大学教授）、事例発表（5 団体）、グループによる意見交換
- ・出席者数 50 人

### ウ 緑の大使・副大使の任命

緑化協会「緑の大使」に京都タワーの人気キャラクター「たわわちゃん」を任命し、イベントでの普及啓発活動に協力していただいている。また、市民団体等

の代表を「緑の副大使」に任命し、協会と団体間の協力関係を深めている。

・平成 23 年度副大使任命 2 人

## (7) 公園緑地の利用促進及び多目的な機能の向上に寄与する事業

### ア 梅小路公園指定管理業務等の受託

京都水族館開業（平成 24 年 3 月 14 日）への対応として、京都市、オリックス不動産株式会社及び一般財団法人京都市都市整備公社等の関係団体と協議し、利用者の利便性向上及び安全確保（駐車場・駐輪場対策等）に努めた。各種イベントや梅小路公園だよりの発行（平成 24 年 3 月再開）等による利用促進を図った。

緑の館は、レストラン業者が平成 23 年 2 月末で撤退し、京都市の公募により選定された新たな業者が経営を再開する 8 月までの間、貸室・庭園とも利用が落ち込んだ。

また、公園再整備のため指定管理区域外となったふれあい広場、七条入口広場等を指定管理区域と一体として管理するための維持管理業務の受託を行った。

### イ 宝が池公園子どもの楽園指定管理業務の受託

子どもの楽園は初めて指定管理者となったが、新たに管理事務所を開設し、管理運営にあたった。プレイパークゾーン法面の侵食やナラ枯れ等の監視、親水施設の小まめな清掃等、子どもや家族連れが安全・安心に過ごせるよう、管理を行った。

### ウ 公園の活性化の取組

公園利用者の満足度を高め、利用者数の増加、利用料金の増収を図る取組みを推進した。

#### a 各種展示会、イベントの誘致開催

・誘致・持込みイベント例

開催日	イベント
毎月第 1 木曜日	一木手づくり市（5 月、1 月を除く）
5 月 15 日	下京区民グラウンドゴルフ大会
9 月 8 日	下京区自主防災訓練
9 月 10 日	梅小路ふれあいコンサート（地元 4 学区の小中高生、保護者等による交流コンサート）
9 月 11 日	ロータリークラブ 震災復興イベント
9 月 23 日	京都音楽博覧会（京都出身のバンド「くるり」を中心とした野外コンサート）（協会特別協力）
9 月 18 日	サンセットチャリティコンサート in 梅小路公園
10 月 2 日	レベレーションフェスタ 2011
10 月 8 日	京都やんちゃフェスタ 2011～梅小路公園に児童館がやってくる！！
10 月 15 日	ほほえみ広場 2011（グリーンフェアと同時開催）
11 月 23 日	どんといけ！まつり 2011（保育関係者の模擬店等）
11 月 13 日	下京区ふれ愛ひろば

#### b 梅小路公園にぎわい創出事業

京都水族館開業にあたり、来園者に京都の物産等を紹介する物販ブースを設け、京

都の食文化等を発信するとともに、公園ににぎわいを創出するための「にぎわい市」を平成24年3月から開催した。

- ・ 出店期間 3月17～31日（平成24年5月まで春季の部開催）
- ・ 出店資格 5店以上の団体であること、公園のイメージを損なう恐れがないこと等。
- ・ 出店料（管理協力費）1ブース（2.7m×3.6m）土日休日3,500円、平日1,000円

d 「紅葉まつり」

ライトアップした梅小路公園朱雀の庭の無料開放とともに、音楽を楽しむコンサート等を開催した。

- ・ 期 間 11月25日～27日
- ・ 内 容 ライトアップした「朱雀の庭」の夜間無料開放、甘酒販売コーナー等
- ・ 庭園入園者数 1,515人

エ 公園ボランティアの運営、連携、支援 <推進プラン事業番号 52-7>

a ボランティア組織「梅小路公園・花と緑のサポーターの会」の運営

平成19年、花壇づくり講習会の修了生の希望者を中心として活動するボランティア組織として設置。週2回の定例作業日に園内の花壇等の植栽の手入れを行い、公園の美化・修景に貢献している。また、講習会の運営補助、公園内外のイベント等での普及啓発活動にも参加している。

- ・ 会員数 平成23年度末現在59人
- ・ 実績 活動回数延べ134回、参加人数延べ1,490人

b 梅小路公園内「花と緑のセラピーガーデン」活動

「セラピーガーデン」は車イスの方も利用できるレイズドベッドを設置するなど、バリアフリーに配慮した施設であり、手入れを行うボランティアが、身体障がい者、引きこもり自助グループの参加も得て、活動を行っている。

- ・ 指導 園芸療法士（米国HTR）寺田裕美子氏
- ・ 活動日 第2・第4木曜日

c インターンシップ等の受入れ

市立白河総合支援学校、市立七条中学校の生徒らの体験学習を受け入れた。

オ 青空健康づくりプログラム（ウォーキング教室） <推進プラン事業番号 18-3>

だれもが気軽にできる運動を中心とする健康増進プログラムとして、梅小路公園の芝生広場で、ウォーキング教室を開催した。試行段階の1～2月はニーズの把握を行い、3月から本格実施した。下京保健センターが推進する健康体操「メタボビクス」も公園内で実施しており、教室は下京保健センターとの共催として、相互の参加促進や広報等で協力を行っている。

- ・ 講師 健康運動指導士 宮本彩氏
- ・ 参加料 無料
- ・ 実績

	開催日	テーマ	参加者数
試行	1月17日（火）	いつもより丁寧に歩く	21
試行	1月31日（火）	広げてみよう！歩幅とところ	24

試行	2月14日(火)	腕を広げてリズムウォーク	9
試行	2月28日(火)	公園をより活用しよう(健康遊具)	28
本格実施	3月13日(火)	スローウォークで正しい歩き方	45
本格実施	3月27日(火)	踏ん張りウォークで脚力アップ	75

#### カ 円山公園巡回・案内業務

国の名勝であり市内有数の観光地である円山公園の施設の安全確認、樹木の枯損等の確認、サクラ開花や紅葉の状況等を含む各種の問合せ対応・案内を行う業務を京都市から受託して実施した。

### (8) 広報・出版

#### ア 広報誌

##### a 京のみどり(季刊)の発行

平成19年度より、市内各地の緑に親しんで歩いていただくためのウォーキングマップや緑を守り育てる取組みを紹介する特集を掲載している。このほか、園芸知識、協会事業、京都市の施策等を紹介。

・各号特集の概要

第59号(夏号) 7月発行	特集:「森について学び遊ぶ場所」左京区・宝が池公園周辺(新宮神社～涌泉寺～松ヶ崎大黒天～宝が池公園, 宝が池公園に見る京の山の問題)
第60号(秋号) 10月発行	特集:「地名が歴史を物語る」中京～右京区・西ノ京周辺(山王神社～島津製作所～市五郎大明神～二条公園, 島津製作所の環境教育活動)
第61号(冬号) 12月発行	特集:「かつての水郷地」伏見区・淀周辺(妙教寺～淀城跡公園～稲葉神社～輿杼(よど)神社～浜納屋, 淀周辺地域の将来を考える会)
第62号(春号) 24年3月発行	特集:「地域のつながりで守られる」左京区・吉田山周辺(岡崎神社～金戒光明時～重森三玲庭園美術館～吉田神社～吉田山緑地～京都大学総合博物館, 吉田山を美しくする会・吉田山の里山を再生する会)

・部数7,000部(平成21年度以降)

・配布場所・配布先 市政案内所, 区役所・支所, 市立図書館, 緑化団体等

#### イ ホームページによる情報発信とリニューアル実施

年度当初に本部事務所移転, 宝が池公園子どもの楽園管理事務所の開設(3事務体制)に対応した。また, 構成・デザインの見直しを進め, 平成24年2月より, 広報誌「京のみどり」のコンテンツの掲載, 緑の相談Q&Aの充実, 協会事業の報告をタイムリーに掲載できる欄(“Pick Up”)を設け, 発信力の強化を図った。

・アクセス件数(Visits数)315,535件(22年度約306,000件)

### (9) 調査・情報収集

#### ア 植生調査等

<推進プラン事業番号52-7>

・樹林の改善等適切な管理及び情報発信の基礎資料とするため, 梅小路公園いのちの森モニタリングへの協力, 子どもの楽園周辺のナラ枯れ木調査を行った。

## イ 間伐材利用方策の調査・情報収集

ナラ枯れ材やスギ・ヒノキ等の間伐材を利用した各種製品（活性炭，土木資材等）を普及し，その収益を森林保全・再生につなげる仕組み（緑のプラットフォーム）づくりのため，ベンチャー企業との共同の調査や情報収集に着手した。

## （10）庭園管理運営・研修・情報発信

### ア 日本庭園の良好な維持管理と運営

#### a 国立京都迎賓館庭園の維持管理業務

京都の庭園の伝統的な技術・技能を継承することを目的として，京都迎賓館の日本庭園の維持管理業務を引き続き受託した。

また，造園系大学学生のボランティア作業や造園技術者の技能研修作業を受け入れ，池流れの清掃，樹木の剪定等を実施した。

#### ・作業実施状況

団体名	実施日	参加者数	内容
京都造形芸術大学	7月13日	40人	池流れ清掃
岐阜県立国際園芸アカデミー	8月19日	23人	池流れ清掃
東京農業大学	9月1日	23人	池流れ清掃
京都府造園協同組合青年部	10月17日	38人	低木の刈込み・剪定

平成22年度は4回実施。

※なお，24年度は，迎賓館庭園管理運営は，収益事業に区分する。

#### b 梅小路公園「朱雀の庭」の維持管理業務

京都が長年培ってきた造園技術を用い，伝統と創生が調和した梅小路公園「朱雀の庭」の維持管理を行うとともに，様々なイベントにより新たな庭園文化の発信を行った。

## イ 庭園情報の収集・発信 <推進プラン事業番号 37-2>

- ・京都の優れた庭園の情報を収集し，ホームページ・広報誌「京のみどり」等において実際に訪れていただくための発信を行っている。

平成23年度「京のみどり」4件の情報

## ウ 庭園文化講座 <推進プラン事業番号 36-1>

- ・京都の庭園技術・技能を継承していくための「日本庭園の伝統的技術・技術研修会」の座学とほぼ同内容の内容で，庭園デザインや関連分野の建築・茶道等の講義を含む庭園文化を学ぶ講座を実施。
- ・実施日 第1回3月21日（7回シリーズ。以降は24年度開催）
- ・受講者38人  
（22年度までは，若手技能・技術者向けの「日本庭園の伝統的技術・技術研修会」として，実技を含めて実施）

## Ⅱ 公園収益事業

公益性の高い事業の財源とするため、公園活性化の方策等により、利用料金収入等の増収を図った。

- ア 自動販売機飲料販売事業
- イ 梅小路公園貸室運営事業（利用料金収入あり）
- ウ 梅小路公園駐車場運営事業（利用料金収入なし）  
「おもいやり駐車場」整備までの間の有料駐車場運営を受託した。
- エ 梅小路公園遊戯用電車運行事業（利用料金収入なし）
- オ 宝が池子どもの楽園駐車場運営事業（利用料金収入あり）

## Ⅲ 法人業務

- (1) 公益財団法人の認定申請
- (2) 事務所体制への変更及び効率的な業務の遂行
- (3) 計画的な教育及び研修の実施による職員の資質と能力の向上
  - ・派遣回数 のべ 14 回 派遣人数 のべ 25 人（情報公開・個人情報保護，コンプライアンス・人権，公益法人会計，遊具保守点検，普通救急救命，公園管理運営士，他団体ヒアリング等）